

Zoom
オンライン
開催

世界標準の傾聴を学ぶ

日本標準の『傾聴』を世界標準の『傾聴』へアップデート

日本では「ロジャーズの態度条件」以降の傾聴について、あまり語られることはありません。ロジャーズがジェンドリンに影響を受けて発展させた「その後の傾聴」を、フォーカシングの世界的指導者である池見先生に解説していただきます。きっと心理士の皆さまの臨床業務や心理支援に役立つことでしょう。

講師 **池見 陽**
Akira Ikemi

世界的フォーカシング指導者
臨床心理士 医学博士
関西大学 大学院心理学研究科教授

ボストンカレッジ心理学・哲学専攻を卒業後、シカゴ大学大学院でユージン・ジェンドリン教授に学ぶ。日本人間性心理学会常任理事、日本フォーカシング協会会長、(米国)フォーカシング研究所理事・評議員、(英国)世界パースン・センタード・センタード及び体験過程療法学会理事などを歴任。現在、(米国)ユージン・ジェンドリン・センター運営委員や専門誌の編集委員等を務める。日本全国のほか、英国、アメリカなどワールド・ワイドにフォーカシングの指導に取り組んでいる。2019年アメリカ・カウンセリング協会発行のJournal of Humanistic Counseling 誌より Living Luminary (存命の輝ける大家) に任命され、2020年日本人間性心理学会学会賞受賞。



こんな方におすすめ

- ✓ 傾聴に自信がない／不安がある方
- ✓ 傾聴をレベルアップさせたい方
- ✓ カウンセリング業務を行っている方



ファシリテーター **喜田 智也**
Tomoya Kita

臨床心理士 公認心理師
株式会社ポルトクオーレ代表取締役

早稲田大学大学院修了後、株式会社公文教育研究会の勤務を経て現職。

早稲田大学人間科学学術院e-school教育コーチ、NPO法人マインドフルネスリテラシー協会理事長、株式会社MSブレイン西日本統括として、カウンセリング、研修講師、研究員、コンサルタントなどの活動に取り組んでいる。

日程

2021年**10月16日** 土 ・ **10月23日** 土

※ 申込みは両日参加できる方のみ受け付けます。どちらかみの参加はできません。
※ 参加者はセミナー後の一定期間、録画映像を視聴することが可能です。

時間

両日とも **13:00~15:30**

対象者

対人支援や相談業務に就く方、またはそれらの職を目指す方

料金

一般価格 **9,900円** (税込) **会員価格 8,800円** (税込)

登録・利用全て無料

その他

日本臨床心理士資格認定協会の臨床心理士更新のためのポイントを申請予定

申込

下記のセミナー特設ページからお申込みください



メディカルリクルーティング

<https://medical-recruiting.jp/seminar/2021-1016-17/>



Zoomオンラインセミナー：世界標準の傾聴を学ぶ

日本標準の『傾聴』を世界標準の『傾聴』へアップデート

傾聴は「リスニング」の訳語で、カウンセリングや心理療法では基本的なスキルや態度を指しています。これはカール・ロジャーズが1940年ごろ世界で初めて面接を録音し、逐語記録を解析して研究した成果として広く世界に普及しています。しかし、この成果が発表されると、それは「オウム返しだ」などと批判され、ロジャーズは「馬鹿にされた」と受け止め、リスニングの具体的な方法に言及しなくなりました。代わって心構えとしての態度条件(本物であること、無条件の肯定的な眼差し、共感的理解)を語りましたが、これらも「誤解された」と嘆いていました。

1970年代にはユージン・ジェンドリンの影響を受け「共感」を「共感のプロセス」として再定義し、晩年にはリスニングについて「二重の洞察」を得たとしています。さて、この二重の洞察とはなんのでしょうか？そして、これ以降、リスニングはどのように変化していったのでしょうか？

セミナー内容（予定）

2021年10月16日 土

講義：ロジャーズはリスニング（傾聴）をどう理解し、どう実践していたのか

- 1) 中核3条件の邦訳をめぐるチャレンジ
- 2) 中核3条件は「態度」である。では実践は？
- 3) 二重の洞察 セラピストの「理解の試み」(Testing Understandings)とクライアントの体験過程
実践：リスニング・デモンストレーション（池見先生×喜田先生）
振り返り：デモ・セッションをめぐる、及び全体Q&A

2021年10月23日 土

講義：ジェンドリンはリスニング（傾聴）をどう理解し、どう実践していたのか そしてロジャーズのリスニングに如何なる影響を与えたのか

- 1) 「二重の洞察」にあるクライアントの体験過程とは
- 2) 体験過程と体験過程様式：現在も進行しているEXPスケール研究
- 3) クライアントの体験過程様式とセラピスト応答：Prof. Lietaer（University of Leuven, Belgium）の研究に対する Prof. Ikemi（関西大学）のコメントをめぐる
- 4) 体験過程の背景にある解釈学的な理解の仕方と心理療法論
実践：リスニング・デモンストレーション（池見先生×喜田先生）
振り返り：デモ・セッションをめぐる、及び全体Q&A

セミナーの内容は講師が準備を進める中で多少変更される場合があります。

